

令和7年度事業計画（案）

学校や企業、地域団体などでSDGsの取り組みや環境問題への関心が高まっており、イベント出展やワークショップ、教育機関への出張授業、企業とのコラボレーション等に取り組んでいく。

海岸漂着物問題の啓発に関する事業の依頼も増えているが、多世代に向けて継続的に啓発をしていくことが重要であり、行政や企業の協力を出来るだけ多く呼び掛けていくこと、助成金の確保や活用、他団体との連携にも努めていく。

身近な川や水辺の健康診断、美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン、スポ GOMI大会等は屋外での活動が主となるため、異常気象によるリスクへの対応もより必要となっている。実施時期の調整等を図っていく。

また、事務局が緑町会館から一般財団法人山形県理化学分析センター飯塚支所内に移転し、4月1日から業務を開始していることから、心機一転なお一層、財務基盤の強化のため、経費の見直しによる歳出削減を図るとともに、企業に対する効果的なPR方法を検討した上で積極的に呼びかけを行い、収入増加を図っていく。

将来を担う世代の育成《教育・啓発》

1 身近な川や水辺の健康診断（別紙募集チラシ参照）

- (1) 参加者募集を広報。参加グループ数：70グループ、調査地点数：200地点を想定
- (2) 実施期間
世界環境デーに合わせ6月7日～15日の原則の実施期間は設けるものの、天候不順などの状況に対応して、10月24日までとし、安全に実施できるよう期間を延長。
- (3) 参加申し込みは、原則の調査期間に合わせ、5月23日の締め切りを設けるが、実施期間中随時申し込みを受け付ける。
- (4) 実施検討会を4月21日に開催し、実施体制など詳細について検討・決定。
参加者は例年同様に国・県の関係行政機関、地域部会、大学、地域で環境保全活動に携わっている方々。
- (5) 調査補助指導者の派遣
新規参加者や学校などで参加する場合に、要望があれば、地域部会や会員専門機関に協力をいただき、事前講習や現地調査補助を積極的に行う。
- (6) 水生生物調査
主催の山形県環境科学研究センターと連携し、希望グループについては、「身近な川や水辺の健康診断」との同時申込可能として募集する。
- (7) 透視度計
例年同様、各地域の貸出担当者に協力をいただき、参加者からの申し込みにより貸し出す。
- (8) CODについては、国土交通省と市民団体が連携して実施する「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として50地点分の器材の提供を受け、調査結果50地点分を提出予定。
- (9) 調査結果集計は引き続き、公益社団法人山形県水質保全協会の協力を得て「水辺診断書」としてレーダーチャートを作成する。

2 スポGOMI大会の開催 (山形県循環型社会推進課委託事業含む) (別紙1参照)

海岸漂着物問題対策の普及啓発の一環として開催する。

スポGOMI大会と啓発資材の活用やワークショップ等と組み合わせることにより、SDGsの取組み、企業のCSR活動、学校や団体、企業が行う環境ツアーとして、環境教育プログラムを提案する。

(企業や団体との連携)

スポGOMI大会等へのボランティア参加、運営参画を推進する。(別紙参照)

海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、ゆらまちつく戦略会議、(株)安藤・間、(株)JTB、三郷堰土地改良区、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、NPO法人パートナーシップオフィス、山形大学生協学生委員会 OH, ONE!、山形新聞社、市町村

3 海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発

(1) 海岸漂着物問題普及啓发出前講座 (山形県循環型社会推進課委託事業含む)

「身近な川や水辺の健康診断」等の実施と併せ、小中学生等に対して出前講座を実施する。

(2) ゴミ回収体験やパネル、ゴミ標本を活用した環境教育プログラムの推進

環境教育のためのゴミ標本や資材の貸出し、説明を行う。

学校、企業イベント、マルシェ、研修会等でのワークショップ、回収体験等の開催。(令和6年度実施報告参照)

スポGOMI大会、クリーンアップや水辺の健康診断等との組み合わせによる環境教育プログラムを提案する。

(3) 海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、海と日本プロジェクトとの連携

連携協力事業例 スポGOMI甲子園、スポGOMIワールドカップ、山形の海洋ごみを考える日、などが想定される。そのほか、SNSや動画を活用した啓発。

4 防災イベントへの協力

地域の抱える課題や、活性化、普及啓発、人材育成などを目的として、「企業×学生×地域団体」が連携し開催する防災イベントに協力する。

5 報告書「笑顔を写す山形の川」

(1) 「身近な川や水辺の健康診断」、「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の結果報告を作成し、ホームページにデジタルブックとして掲載し、Web上で報告する。

(2) 「身近な川や水辺の健康診断」については、全県の結果を1枚の河川地図上に表した概要版を作成印刷し、実施団体や学校等へ配布。

地域の環境保全と安心づくり《課題解決》

1 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン (別紙募集チラシ参照)

(1) 実施期間 通年募集とする。

(2) 実施経費の支援 1グループ当たり一律3千円の支援を想定。

(3) イベントとのコラボレーション

スポGOMI大会や海岸漂着物問題普及啓発事業との併催を推進する。

(4) 最上川上流におけるクリーンアップ活動の実施

国土交通省山形河川国道事務所からの委託(オープンカウンター方式見積合わせにエントリーの上)で長井市、白鷹町、朝日町、寒河江市、天童市、河北町で実施予定。

- (5) クリーンアップ全国事務局や全国川ごみネットワーク主催の「全国水辺のごみ調査」にデータを提供する。

2 散乱ごみの発生抑制対策の推進 (別紙2参照)

- (1) 学校、企業イベント、商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施
マルシェ等のイベントにも積極的に出展し、パネルや見本の展示、体験やワークショップ、研修会を行うなど実施内容を検討する。海洋へのゴミの流出削減を呼びかける。
- (2) 過年度作成した動画や啓発資材の活用
- (3) 山形県海岸漂着物問題推進協議会への参画
山形県海岸漂着物対策推進協議会の構成団体として、総会等に参加し提案等を行っていく。
- (4) 川ごみ団体、全国川ごみネットワークとの連携

3 広報啓発

- (1) 環境展のブースへの出展等の機会を活用し、ゴミ発生源対策を中心として、当フォーラムの活動の広報、環境保全の啓発に取り組む。
- (2) SNSを活用した啓発を進めるとともに、フォロワー数増加のための仕掛け等を検討する。

環境や文化を地域活性化に活かす《活用》

1 最上川夢の桜街道づくり

- (1) 桜を中心とした緑化推進のための維持管理と多世代に向けたワークショップ等を行い、地域活性化、人材育成に努める。
緑の環境づくり推進事業(やまがた森林と緑の推進機構)助成金申請予定。
- (2) 県内の桜の名所や地域で愛されている桜の写真と、桜をモチーフにした灯りを紹介する「桜の写真と灯りの展示会」巡回展示では、桜守の活動紹介もを行い、最上川・山形の魅力を広く発信していく。(2月から5月)

2 桜や水辺の写真を活用した情報発信

- (1) これまでの写真コンテスト入賞作品の貸出しを希望者に対して随時行う。
- (2) 「桜の写真と灯りの展示会」(別添チラシ参照)
全市町村に展示箇所の照会を行い、令和7年2月下旬から市町村の協力を得て巡回。桜の維持管理事業の紹介も兼ねた展示を行う。(前述)

3 地域おこしの紙芝居作成

- (1) これまで制作した最上川にまつわる紙芝居の上演、貸出しの積極的な発信を行い、動画の活用を促進する。
- (2) 令和6年度に制作した村山の紙芝居の動画制作。Webを活用した配信。

地域部会

◇置賜地域部会

- (1) 村山地域部会と連携した紙芝居づくり（地域おこしの紙芝居作成（2）参照）
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (3) 「スポGOMI大会」への協力

◇村山地域部会

- (1) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」協力
- (2) 「スポGOMI大会」への協力
- (3) 「やまがた環境展」出展の際のスタッフ協力
- (4) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力

◇最上地域部会

- (1) 桜を守り育てる研修会開催、現地団体との連携
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力

◇庄内地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
- (2) 「スポGOMI大会」の開催、現地団体との連携
- (3) 「桜の育成維持管理研修会」現地団体との連携
地域の要望に沿った形で開催を検討する。
- (4) 内川学関連事業の開催

1 総会・運営委員会・部会・役員会

通常総会（6月30日予定）

運営委員会（5月27日、11月、3月）

清流・環境対策部会及び最上川文化・地域経済活性化部会の合同開催（3月）

役員会（5月12日、運営委員会に先立ち開催、必要に応じ随時開催）

2 会員拡大の取組み

(1) 個人会員の募集

- ① 引き続き、県内金融機関並びに県、市町村の協力を得て窓口への入会案内設置などによる会員募集キャンペーンを実施する。
- ② 新たに「学生会員（仮称）」の創設を検討し、当フォーラムに関心のある若者が参画できる仕組みを整えていく。
- ③ また、缶バッジや会員証などの作成も検討し、当フォーラムの会員であることのステータスを高める仕組みも整えていく。

(2) 法人会員の募集等

- ① 企業経営者に対する入会勧誘及び寄付募集等について、講演等の機会を活用して当フォーラムの活動を紹介するなど、役員が先頭に立って注力していく。その際、商工団体や法人団体等から助言や協力を得るものとする。

今年度は、当フォーラムの最重要事項として会費の増収に向けて取り組んでいく。

- ② 引き続き、既存の法人会員に対し、会費増額（一口5千円を1万円以上に増額）の要請を併せて行っていく。

(3) 効果的な勧誘PR方法等の検討

企業にとって納得感が得られるようなメリットの付与や顕彰、PR方法等を検討する。
例えば、「企業の認定制度」。

3 運営基盤の強化

- (1) 役員が中心となり、会員拡大や支援（財源）獲得並びに収支改善を図っていく。今年度は前述のとおり企業会員の増加や広報の強化などについて、強力に取り組んでいく。また、行政等への理解、協力、連携を仰ぐため積極的に出向き、次年度以降の継続に向けて働きかけていく。

さらに、昨年度から実施した当フォーラム印刷物「河川水質マップ」への広告掲載依頼を、引き続き役員が中心となり実施し、企業様のご賛同を得ながら、広告収入を確保していく。

- (2) 専門部会については、現在2つの部会が相互に関連しているため合同で部会を開催している。今後の専門部会のあり方について、役員会等で議論の場を設け、関係者の間でより良い方策を検討し、活性化につなげていく。

- (3) 地域部会については、部会長個人の頑張り依存している現状や受け皿となり得る活動団体が存在しない地域もある事などを踏まえ、人材確保に向けた取組みを行うとともに、地域の実情に合わせた柔軟な対応を検討していく。

その他 委託事業・助成事業・連携事業など

1 委託事業・助成事業・連携事業など

- (1) 国土交通省や山形県の委託事業への対応
 - ・山形県委託事業
 - 事業名：令和7年度川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務
スポ GOMI 大会開催、海岸漂着物問題普及啓発出張講座の実施
- (2) 山形県海岸漂着物対策推進協議会への参加
- (3) 全国川ごみネットワークとの連携
- (4) 「海と日本プロジェクト」との連携
- (5) 国土交通省や山形県、企業・団体とのコラボレーション事業など連携の強化
普及啓発活動の推進等
- (6) 運営体制整備事業費補助金（山形県）
事務局長設置費
- (7) 各種助成事業・基金への応募や、寄付などの獲得と活用
 - ・緑の環境づくり推進事業（公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構）
 - ・水環境保全助成事業（一般社団法人全国浄化槽団体連合会） 申請予定
など 随時検討し申請予定。

※敬称略